

御由緒

御創建の時は不明であるが、古くより三島の地に御鎮座し、三嶋大明神と称せられ、富士火山帯の根元の神、伊豆の国魂の神、国土開拓の神としての信仰は古く、天武天皇十三年(日本書紀)淳和天皇天長九年(釋日本紀)仁明天皇承和七年(續日本後紀)宇多天皇仁和三年(扶桑略紀)等に大明神の造島の事が見え、仁明天皇嘉祥三年(文徳実録)以下、その位階は累進し、延喜の制においては名神大社に列し、月次、新嘗の官幣に預り、祭料稲二千束を寄せられた。

中世以降、武士の崇敬極めて篤く、殊に永暦元年伊豆に流された源頼朝は深く當社を崇敬し、建久二十年、治承四年八月十七日、當社御例祭の夜、御神助を得て、山木判官平兼隆を討ち、旗竿に成功し、神領を寄せ益々崇敬するところとなり、以来武門武将の尊崇篤くこれらの奉納品多数を所蔵している。又、東海道に面し、下田街道の起点に位する交通の要衝に当り、三嶋大明神の称は広く天下に広まって行った。

尚明治四年には社格が制定され、官幣大社に列せられた。



三嶋大社

静岡県三島市大宮町2丁目1番5号
TEL055(975)0172代-FAX(975)4476

<http://www.mishimataisha.or.jp>

三嶋大社

御祭神

大山祇命・積羽八重事代主神、
御二柱の神を総称して三嶋大明神と称す。

御例祭

八月十六日、古くは旧八月中の酉の日に行われ、源頼朝が旗竿げをした治承四年には、「吾妻鏡」によれば、「十七日丁酉、快晴、三島社神事也、藤九郎盛長為奉幣御使社参」とある。後に十六日に固定し、仲秋の祭であったが、明治六年より新暦八月十六日となり、夏祭となった。昔から三島嶼と露店が有名で、全国からの露店は境内及び旧東海道を埋めつくし、近郷近在からの参詣者で市街地への車の乗入れが規制される程である。



御境内

古くは現在の数倍の広大な御境内であったが現在は約一万五千坪(五万平方米)。三島市の中央に鬱蒼とした森に囲まれ、千古の老大木も現存する荘厳な神域であり、史蹟、名石、名木等が点在する。

御社殿

嘉永七年十一月四日、東海大地震により、社殿工作物悉く倒壊した。時の神主矢田部式部盛治は、直ちに社奉行に届出ると共に、その復旧に着手し、先づ社頭に御影石の大鳥居を建設し、続いて本殿、幣殿、拝殿以下、舞殿、神門、総門、摂末社、その他附属建物及び工作物等、現在に見る社大なる社殿群を十年の歳月を費して完成した。

その後、大正十二年の関東大震災、昭和五年の伊豆震災の復旧工事と平成二年御大札を記念し補修工事が行われた。

社務所

平成元年十一月二十五日に竣工。地下一階、地上二階建て鉄骨・鉄筋コンクリート造りで、大きな屋根と深い軒が特徴で、荘厳な建物である。建物内部は事務室を始め大小の会議室、大広間、研修室などがあり、近代的設備と機能が配備されている。

史蹟

●神池 古い神池で、心字池であり、鎌倉時代、源頼朝が放生会を行った。又一遍聖絵によってもその面影を見る事が出来る。一米余の大淵を初め、真鯉、錦鯉が群遊する。

●金木庫 樹齢一千二百年と伝えられる天然記念物指定の金木庫は、日本一の大木であると共に、九月上旬と九月下旬から十月上旬にかけて一回薄黄色の小花を全枝につけ、その芳香は二里に及ぶと伝えられている。

●名石 源頼朝が参詣の折休憩したと伝えられる腰掛石がある。三島七石の一つに数えられる牛石が有名である。

●名木 神池畔に樹令千余年を越える楠の大木があり、三島七木の一つであり、現存するただ一本の老木である。

●銅像 幕末の偉人、矢田部式部盛治は、嘉永七年十一月四日の東海大震災により倒壊した社殿を十年の歳月を費して復旧完成し、官幣大社に列格せしめ、幕府脱走隊の三島進入に際しては、之を沼津に退去せしめ、伊豆伊吹隊を結成し大総督官を警護先導し、明治天皇の御東幸を奉送し、又紙園山腹にトンネルを掘り、買茂ヶ洞の荒地を美田となす等、種々の偉業を顕彰するため市民によって、昭和二十九年、彫刻界の長老澤田晴(政)康作の銅像が建立された。

●句碑 伊豆魂神社参道沿に、松尾芭蕉の句碑がある。

●歌碑 東側神池南端に、若山牧水が沼津から詠んだ、祭の夜の歌碑がある。

宝物館

平成九年九月二十九日竣工。平成十年四月一日開館

地下一階、地上二階四八二坪

鉄骨鉄筋コンクリート造、耐火建造物

一部床免費、展示室、収蔵庫、館長室、学芸員室、講座室等を備える。

宝物

国宝 梅時給手箱 内容品共四十七点 北条政子奉納
重文 太刀銘宗忠 明治天皇御奉納 鎌倉時代

● 脇差銘秋義 南北朝時代
● 般若心経 源頼家筆 建仁三年八月十日
● 三嶋社奉納奥書一巻

● 古文書 平安時代以降の三嶋大社矢田部家文書 五九二点

● 重美 三嶋本日本書紀 室町時代
● 其の他古文書、刀剣等多数を所蔵する

祭典

一月 一日 歳旦祭	五月 五日 端午祭
三日 元始祭	六月 三十日 大鼓式
七日 田祭	七月 十五日 八坂大神渡御祭
● 特殊神事 祭神(文之祖) 五穀豊穡を祈る	八月 十五日 宮宮祭
予祝神事	● 例祭 手鞠花火神事
● 特殊神事 小笠原調運祭	十七日 渡馬神事
● 特殊神事 奉射祭	文治元年源頼朝が奉納。現在武田氏一門の奉仕による。
三十三間先の大鏡を射て悪鬼を鎮う祭	後鎮祭
二月 三日 御分祭	九月 満開時 木犀の夕
追儺祭場強式	十月 十七日 神嘗事祝祭
● 特殊神事 天竺を鎮う祭	十一月 四日 明治祭
三月 三日 桃節句祭	● 例祭 伊豆魂神社例祭
● 特殊神事 三十一日 交通安全祈願祭	十五日 七五三祝祭
四月 九日 鎮花祭	● 例祭 秋の西祭は新緑感謝の祭
十一日 敬老祭	● 例祭 恵比須鎮祭
十三日 水産祭	十二月 二十三日 新嘗祭
十六日 西祭	三十一日 大鼓式
● 例祭 春の西祭は五穀豊穡を祈る祭	除夜祭
	毎月一日・十六日 月次祭



国宝、北条政子奉納 梅時給手箱



▲例大祭



矢田部式部盛治銅像



腰掛石



▲金木屋の夕



▲社務所

夏越の綱▶